

【資料1】

I 学力向上対策について

1 石巻市の現状について

(1)令和4年度全国学力・学習状況調査(R4.4.19 小学校6年・中学校3年)

①平均「正答率」比較表					※(P)=ポイント		傾向
校種	教科	①	②	③	乖離(P)		
		全国 ※公立	宮城県 (仙台市含)	石巻市	全国 ③-①	宮城県 ③-②	
小学校	国語	66	62 (64)	62	-4	0	○全体的に全国との乖離が減少している。特に小学校国語は県平均と同じ。 ▼小中全ての教科が全国平均を下回っている。 ▼算数・数学の乖離が大きい。
	算数	63	58 (60)	57	-6	-1	
	理科	63	60 (61)	59	-4	-1	
中学校	国語	69	68 (69)	66	-3	-2	
	数学	51	45 (49)	44	-7	-1	
	理科	49	47 (50)	45	-4	-2	

※理科は平成24年度から実施。3年に一度程度実施予定。

②平均「正答数」比較表					※(問)=問題数		傾向	
校種	教科	問題数	①	②	③	乖離(問)		
			全国	宮城県	石巻市	全国 ③-①		宮城県 ③-②
小学校	国語	14	9.2	8.7	8.7	-0.5	0.0	○算数・数学の問題数の乖離は最大でも1問である。 (※中数H31:1.4 R3:1.2)
	算数	16	10.1	9.3	9.2	-0.9	-0.1	
	理科	17	10.8	10.2	10.0	-0.8	-0.2	
中学校	国語	14	9.7	9.5	9.3	-0.4	-0.2	
	数学	14	7.2	6.3	6.2	-1.0	-0.1	
	理科	21	10.4	9.9	9.5	-0.9	-0.4	

③観点別・領域別の特徴(評価:○=良さ ▼=課題)							傾向	
校種	観点	国語		算数・数学		理科		
		評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴	
小学校	知識及び技能	○	無回答率低			▼	全国との乖離【大】	○国語の小学校は「無回答率が低く」、中学校は「言語文化」の領域が全国を上回った。 ○数学の中学校の記述問題の無回答率が全国より低かった。 ▼算数・数学、理科は課題のある観点・領域が多い。
	思考・判断・表現	▼	書くこと・読むこと	▼	全国との乖離【大】	▼	全国との乖離【大】	
	記述式			▼	全国との乖離【大】			
	選択式	▼	全国との乖離【大】					
	短答式					▼	全国との乖離【大】	
	領域別			▼	量と計算・データの活用	▼	A・B区分、粒子	
中学校	知識及び技能	○	言語文化	▼	全国との乖離【大】			
	思考・判断・表現							
	記述式			○	無回答率【少】	▼	全国との乖離【大】	
	選択式							
	短答式							
	領域別			▼	数と式・問9(2)の無回答	▼	エネルギー・地球・生命	

(2) 令和4年度第1回標準学力調査(R4.4 市内全小学校2年～中学校3年)

①平均正答率比較表

国語正答率							算数・数学正答率						
小学校		2年	3年	4年	5年	6年	小学校		2年	3年	4年	5年	6年
総合	① 石巻市	76.3	62.9	63.5	63.8	56.2	総合	① 石巻市	72.4	69.5	68.9	55.6	59.0
	② 全国	79.5	67.1	68.0	68.0	62.0		② 全国	78.0	73.9	73.1	60.4	63.5
	乖離①-②	-3.2	-4.2	-4.5	-4.2	-5.8		乖離①-②	-5.6	-4.4	-4.2	-4.8	-4.5
基礎	① 石巻市	86.2	73.2	68.3	70.1	62.7	基礎	① 石巻市	78.6	73.5	73.0	61.4	63.0
	② 全国	89.3	77.9	73.5	74.0	68.4		② 全国	83.4	77.6	76.8	66.3	67.8
	乖離①-②	-3.1	-4.7	-5.2	-3.9	-5.7		乖離①-②	-4.8	-4.1	-3.8	-4.9	-4.8
活用	① 石巻市	57.8	42.3	52.6	49.5	41.6	活用	① 石巻市	50.9	57.5	54.4	44.5	46.6
	② 全国	61.2	45.6	55.6	54.5	47.7		② 全国	59.0	63.0	60.0	49.3	50.3
	乖離①-②	-3.4	-3.3	-3.0	-5.0	-6.1		乖離①-②	-8.1	-5.5	-5.6	-4.8	-3.7

中学校				中学校					
		1年	2年	3年			1年	2年	3年
総合	① 石巻市	52.5	61.9	62.4	総合	① 石巻市	63.8	48.7	47.3
	② 全国	57.3	66.7	67.5		② 全国	69.2	56.6	52.6
	乖離①-②	-4.8	-4.8	-5.1		乖離①-②	-5.4	-7.9	-5.3
基礎	① 石巻市	57.1	67.8	61.5	基礎	① 石巻市	64.8	50.4	49.9
	② 全国	62.2	71.4	66.1		② 全国	70.6	58.2	55.2
	乖離①-②	-5.1	-3.6	-4.6		乖離①-②	-5.8	-7.8	-5.3
活用	① 石巻市	43.8	50.8	64.1	活用	① 石巻市	59.5	44.0	40.0
	② 全国	48.1	57.8	70.2		② 全国	63.5	52.3	46.0
	乖離①-②	-4.3	-7.0	-6.1		乖離①-②	-4.0	-8.3	-6.0

②傾向

○国語は全国との乖離が5以上だったのは小6と中3だけだった。

▼全学年全国の平均正答率を上回ることができなかった。

▼特に算数・数学の全国との乖離が大きい。

▼小学校低学年、算数の「活用」の乖離が大きい。

▼中学校全学年、数学の「基礎」の乖離が大きい。

③石巻市教科等指導員による分析

【国語】

(小)・「読むこと」に関しては、初めて読む文章に弱い。

- 文章の構成（事実と筆者の考えを分ける）が出題された。教科書にも同様の文章があり、授業の内容が子供たちの中ではつながっていない。

- 言葉の意味が理解できていない。読書量の差が、個人の成績の差につながっている。

(中)・「書くこと」に課題が見られる。特に中学校に顕著なのは、毎日の書く訓練不足が考えられる。

- 無回答の生徒が多い。授業中の話し合い等、意欲はあるがそれがテストの結果につながってこない。意欲を学力につなげるために個別最適な学びの重要性を感じる。タブレットドリルが有効。

【算数・数学】

- (小)・数と計算の基本的なところ（繰り上がり、繰り下がり、分数の意味理解、割り算）に課題がある。（3年生の問題で波及的繰り下がりのある3桁－2桁の計算）
 - ・変化と関係の割合や変わり方調べに課題がある。（5年生で学習する伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題）
 - ・文章問題について、複雑に問われてくるところなどが課題である。
- (中)・1年生では変化と関係に課題が見られる。（比と比例・反比例の比例の関係を、xとyを使って式に表す問題）
 - ・2年生では、図形に課題が見られる。（空間図形の直方体の辺のねじれの位置関係について理解しているか問う問題）
 - ・3年生では、データの活用に課題が見られる。（3枚のカードから2枚取り出して2桁の整数を作るときの確立を求める問題）

【2年生の算数に関する石巻市教育委員会の分析】

5 つぎの けいさんを しましょう。

(1) $7 + 5 =$

(2) $11 + 8 =$

(3) $40 + 6 =$

(4) $8 - 2 =$

(5) $12 - 3 =$

(6) $84 - 4 =$

(7) $6 - 2 - 1 =$

・全国平均以下ではあるが、目標値(90%)
を越えている。

9 ゆいさんたちは、いちれつに ならんで アイスクリームを かいます。
ゆいさんは、まえから 3ばんめに います。
ゆいさんの うしろに 4人 います。

(1) ならんでいる ようすを ずに あらわしました。
正しい ずは どれですか。つぎから 1つ えらんで、
その ばんごうに ○を つけましょう。

(2) みんなで なん人 いますか。

しき

こたえ 人

・全国との乖離が大きい。目標値は75%である
が、全国が70%に対して本市は50%程度である。

10 8 + 2のしきになるもんだいはどれですか。つぎから1つえらんで、そのばんごうに○をつけましょう。

- 1 8人がならんでバスをまっています。こうすけさんは、まえから2ばんめにいます。こうすけさんのうしろには、なん人がいますか。
- 2 ひなのさんは、まめを8こたべました。おとうとは、ひなのさんより2こすくなかったそうです。おとうとは、なんこたべましたか。
- 3 赤いきんぎよが8ひきいます。くろいきんぎよは、赤いきんぎよより2ひきおおくいます。くろいきんぎよは、なんびきいますか。
- 4 はこが8こあります。そのうち2こにシールをはりました。シールをはっていないはこは、なんこですか。

・目標値55%に対して、全国は54%、本市は38%

(誤答が多かった問題)

- ・加法の式に合った文章問題を選ぶ。
- ・ある時刻の針の位置を説明する。
- ・示された減法の式から、適切な問題を作る。

(考えられる原因)

- ・計算力は身に付いているが、計算の理由や手順等を説明できない。
- ・文章を読んで立式はできるが、式を文章化できない。
- ・説明することができない。

↓

3, 4年生にも同様の傾向

- ・文章を図や式に表せない。
- ・方法や理由を説明できない。

2 現在の取組について

(1) 学力向上プラン「長期目標」

① 第Ⅰ期：R4～R6「学力」に対する意識改革

【全国学力・学習状況調査の平均正答率、県平均を目指します】

「学力」は、単に「知識の暗記」という捉えから、社会を生き抜く力を身に付けるための「学び方を学ぶ力」であることへ、児童生徒、学校、家庭・地域が意識を変え、主体的な学びを確立する期間とします。

② 第Ⅱ期：R7～R9「石巻スタイル」の確立

【全国学力・学習状況調査の平均正答率、全国平均を目指す】

第1期の実践の累積により、児童生徒の意欲を充実させ、授業力向上のポイントを明確化し、時間の自己管理ができる児童・生徒の育成が継続できる「石巻スタイル」を確立する期間とします。

③ 第Ⅲ期：R10～R12「主体的な学習者」の育成

【全国学力・学習状況調査の平均正答率、全国平均以上の維持を目指す】

児童・生徒一人一人が自分の良さを自覚し、自分が得た知識によって周囲の人を幸せにしようという意識をもち、主体的に学びに向かう児童・生徒を育成する期間とします。

(2) 学力向上プラン「短期目標」

目指す主体的な学習者の姿

- ◇自分の考えをもち、自分の言葉で表現できる
- ◇自分で時間の管理ができる
- ◇学んだことを、他者のために使おうとする

一人一人が・・・「学習意欲の向上」

- 年2回の標準学力検査結果の自己分析
- タブレットドリルを活用した自己課題克服
- スモールステップで「できた」という達成感の実感
- 「MLA」の実践による、学びの土台作り
- ピアサポート（仲間支援）による自己有用感の実感

仲間と共に・・・「授業力の向上」

- 「協同学習」を基本とした、対話的な学習スタイルの確立
- 思考力・表現力を高める課題と発問の工夫
- ICTを活用した、個別最適な学びの工夫
- 学力向上のマネジメント力向上、授業力向上の研修の実施

自分の力で・・・「基本的な生活習慣の確立」

- 「はやね、はやおき、あさごはん」の実践
- 保護者との連携による家庭での時間管理の工夫
- 読書時間の確保と読書で得た知識のアウトプットの工夫
- 自己調整力に関する、客観的評価の工夫

一歩前進・・・自分自身の成長を実感

「主体的な学習者」とは、自分の夢や目標に向かい、自らの課題に工夫と改善を繰り返して、継続的に粘り強く取り組む力をもつ人と捉え、それぞれの能力に応じて、生涯にわたって学び続ける人材を育成する。

推進期間（第Ⅰ期） 客観的数値目標

全国学力・学習状況調査の平均正答率を「県平均以上」とする

- ・1年目達成目標1：タブレットドリルの家庭での有効活用率を6割とする
- ・1年目達成目標2：標準学力調査の達成率向上の学校を7割とする

(3) 具体的な取組について

- ① 小学校での「教科担任制」の積極的な導入。→各校のマネジメント
- ② 標準学力調査後の三者面談の実施。→市内全小中学校が夏休みまでに実施
- ③ タブレットドリルの導入。→持ち帰って家庭で取組む
- ④ 標準学力調査の実施。→4月と12月
- ⑤ 教員による先進地視察→山大教職員研修の活用
- ⑥ 「協同学習」の推進→対話的で深い学びの実践
- ⑦ 教科等指導員による課題改善授業の提案→標準学力調査を分析し課題克服授業の実践・累積

3 今後の課題について

- ・ 標準学力調査から「読む力」に課題、全国学力・学習状況調査の質問調査から、「ゲーム時間が多い」「読書時間が少ない」という実態があり、学校では「読書」に力を入れて指導している。家庭の協力が必要不可欠である。
- ・ 「授業改善」の具体的な方法として「協同学習」という形態を提案しているが、「形」だけの模倣の段階で、「教える授業」から抜け出せない実態がある。

II 体力向上対策について

1 石巻市の現状について

(1) 令和3年度 全国体力・運動能力 運動習慣等調査(R3.1学期 小学校5年・中学校2年)

① 平均値の全国・県との比較 (※中学生持久走は男子 1500m、女子 1000m)

小学校5年		体力合計	握力	上体おこし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール投げ	肥満傾向の割合	
			kg	回	cm	点		回	秒	cm		m
男子	① 全国	52.52	16.22	18.90	33.48	40.35	46.83	9.45	151.41	20.58	13.10	
	② 宮城県	51.98	16.33	18.67	33.15	40.58	44.86	9.58	147.89	20.99	18.70	
	③ 石巻市	53.09	16.54	19.03	35.10	41.60	46.29	9.48	147.01	20.56	19.20	
	全国比 ③-①	0.57	0.32	0.13	1.62	1.25	-0.54	0.03	-4.40	-0.02	6.10	
	県比 ③-②	1.11	0.21	0.36	1.95	1.02	1.43	-0.10	-0.88	-0.43	0.50	
女子	① 全国	54.64	16.09	18.08	37.90	38.72	38.15	9.64	145.18	13.30	8.90	
	② 宮城県	54.06	16.34	17.76	37.18	39.02	36.74	9.73	142.08	13.39	13.40	
	③ 石巻市	55.07	16.57	18.09	38.72	40.04	37.56	9.71	142.20	12.82	14.20	
	全国比 ③-①	0.43	0.48	0.01	0.82	1.32	-0.59	0.07	-2.98	-0.48	5.30	
	県比 ③-②	1.01	0.23	0.33	1.54	1.02	0.82	-0.02	0.12	-0.57	0.80	
中学校2年		体力合計	握力	上体おこし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ハンドボール投げ	肥満傾向の割合
			kg	回	cm	点	秒	回	秒	cm	m	
男子	① 全国	41.18	28.80	25.99	43.67	51.19	406.38	79.88	8.01	196.36	20.31	10.00
	② 宮城県	40.82	29.33	26.08	43.76	51.35	418.37	77.97	8.03	193.76	19.50	14.50
	③ 石巻市	41.22	28.63	26.66	43.89	52.68	434.42	76.80	7.91	195.82	18.69	15.40
	全国比 ③-①	0.04	-0.17	0.67	0.22	1.49	28.04	-3.08	-0.10	-0.54	-1.62	5.40
	県比 ③-②	0.40	-0.70	0.58	0.13	1.33	16.05	-1.17	-0.12	2.06	-0.81	0.90
女子	① 全国	48.56	23.43	22.32	46.20	46.25	297.62	52.24	8.88	168.15	12.72	7.10
	② 宮城県	47.23	23.41	22.11	46.04	45.93	305.20	51.87	8.96	163.88	11.98	10.20
	③ 石巻市	47.91	22.94	22.80	45.53	46.90	321.25	50.93	8.90	166.07	11.89	9.50
	全国比 ③-①	-0.65	-0.49	0.48	-0.67	0.65	23.63	-1.31	0.02	-2.08	-0.83	2.40
	県比 ③-②	0.68	-0.47	0.69	-0.51	0.97	16.05	-0.94	-0.06	2.19	-0.09	-0.70

② 傾向

- 当調査が全校実施となった平成25年度以降、中学校女子以外は、体力合計点が初めて全国値を上回った。
- 小学生は、握力、上体おこし、長座体前屈、反復横跳びが全国の値を上回った。
- 中学生男子は、上体おこし、長座体前屈、反復横跳び、50m走、女子は上体おこし、反復横跳び、が全国の値を上回った。
- ▼小学生は、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、中学生は、それに加えて持久走の値が全国の値を下回った。
- ▼小中学生共に、肥満傾向の割合が全国値を上回っている。

③ 石巻市教育委員会による分析

- 全国の値を上回ったのは、コロナ禍にあっても、各校において、児童の体力向上に関して意識を高く持ち、業間遊びの奨励や縄跳び検定の実施、サーキットトレーニングの導入など、体力向上策を地道に継続してきた成果の表れと捉える。
- 中学校においては、各校において、体育の授業や部活動の充実を図ってきた成果の表れと捉える。
- ▼男女共通の課題となっているのは走力、持久力、跳躍力である。これらの力を伸ばすトレーニングと外遊びの中で体をたくさん動かす機会をさらに増やしていくことで、総合的な体力の向上を図っていくことが必要である。
- ▼肥満傾向にある児童の割合については、ここ数年、全国平均を上回っている。食生活や運動習慣等の基本的な生活習慣の改善に向けた取組を家庭とタイアップしながら進めていく必要がある。
- ▼中学生男女とも特に大きな課題になっているのは持久力である。持久力の向上に向けて、体育や部活動において、ランニングの時間の確保、メニューの工夫等が必要である。

2 現在の取組について

(1) 体力向上プラン目標

- 「全国体力・運動能力 運動習慣等調査」の平均値を全国平均以上とする。
- ※ 今後詳細なプランを策定予定

(2) 具体的な取組について

① 小学校

- ・業間遊びの奨励や縄跳び検定（県教委主催 Web 縄跳びを含む）の実施
- ・体育の授業におけるサーキットトレーニングの導入などの体力向上策
- ・食育をはじめとする、食生活や運動習慣等の基本的な生活習慣の改善に向けた指導

② 中学校

- ・コロナ禍における、保健体育の授業や部活動等を活用した運動機会の確保の工夫
- ・保健等の授業における食生活や運動習慣等の基本的な生活習慣の改善に向けた指導

3 今後の課題について

- ・トレーニングと外遊びの中で体をたくさん動かす機会の確保を継続するとともに、持久走、50m走、ソフトボール投げなど「技術」が必要な種目については授業の中で習得する必要がある、授業技術の向上が求められる。
- ・肥満傾向の改善には、家庭の協力が不可欠であり、学校と家庭が連携した基本的な生活習慣の改善に向けた取組が必要である。

III おわりに

学力・体力向上に共通する課題として以下の2点が挙げられる。

- ① 児童生徒が主体的に取り組む「授業改善」
- ② 基本的な生活習慣を身に付けるための「学校と家庭との連携」